

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2021年3月）

目 次

新型コロナウイルス

◆ 3月31日現在の感染情報等	2
◆ 露ワクチン「スプートニクV」の購入、到着	2
◆ 3月8日以降のFFP2マスク着用義務	2
◆ 南ア型変異株の国内初確認	3
◆ 3月20日以降の緊急事態宣言及び外出禁止令の延長	3
◆ 変異株スクリーニング検査の結果	3

内 政

◆ 連立政権危機とマトヴィチ首相の辞任	4
◆ 政党支持率調査結果	5

外 政

◆ 国籍法改正案へのハンガリーの介入問題	5
----------------------	---

経 済

◆ 2020年の主要経済指標	6
◆ コシツェ工科大学とファーウェイ社による人工知能研究所開設に向けた覚書署名	6
◆ 2021年の経済予測	7

別添：主要経済指標

※ 本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

新型コロナウイルス

◆3月31日現在の感染情報等

- (1) 3月のPCR検査に基づく新規感染者数は5万3564名（2月は5万8568名）、3月の死者数は2520名（2月は2559名）。
- (2) 3月31日時点のPCR検査に基づく累積感染者数は36万2489名（前日比+1304名）。3月31日の検査数は8654件。
- (3) 3月31日時点の累積死者数9790名（前日比+71名）。
- (4) 3月31日時点の1回目の累積ワクチン接種者数は71万9418名（前日比+1万7571名）、2回目の同接種者数は26万2701名（前日比+1877名）。

◆露ワクチン「スプートニクV」の購入、到着（3月1日付首相会見）

3月1日、マトヴィチ首相及びクライチー保健相はコシツェ空港において、ロシア製ワクチン「スプートニクV」の購入に関する記者会見を行ったところ、概要は以下のとおり。

- (1) スロバキアは露ワクチン「スプートニクV」を200万個購入した。本日（1日）、そのうち20万個の同ワクチンが、モスクワからコシツェ空港（スロバキア東部）に到着した。スプートニクVに関するロシアとの購入契約は2月27日に署名された。
- (2) 3月中に40万個、4月までに累計100万個のスプートニクVが到着予定。5～6月に更に100万個の同ワクチンが到着予定。同ワクチンの購入費用は2個（一人用2回分）で19.90米ドル（約17ユーロ）。
- (3) スプートニクVに反対する者がロシアとの契約を妨害することを防ぐため、購入契約交渉は秘密裡に進められた。

◆3月8日以降のFFP2マスク着用義務（3月3日付公衆衛生局布告）

3月8日以降、小売店及び公共交通機関においては、口と鼻をFFP2マスク（またはそれと同等以上の水準のもの）で覆うことが義務づけられる。

3月15日以降は、全ての屋内公共空間において、口と鼻をFFP2マスク（またはそれと同等以上の水準のもの）で覆うことが義務づけられる。

以下の者はFFP2マスク着用義務措置の対象外。

- (1) 初等学校前期課程（1～4年生）を修了していない子供。
- (2) 自閉症の者。
- (3) 中度から重度の精神又は聴覚の障害を持つ者。
- (4) スポーツ活動に従事する者。
- (5) 写真の被写体になる者が、撮影活動上やむを得ない場合。

- (6) 結婚式の新婦及び新郎。
- (7) 映像作品の被写体になる者、上演中の芸術家。
- (8) 手話通訳者。
- (9) 職場に1人である場合。
- (10) 危険有害業務に従事する者。

◆南ア型変異株の国内初確認（3月7日付Dennik N紙電子版、11日付プラウダ紙）

3月7日、保健省は、スロバキア国内の7つの陽性サンプルから南ア型変異株（B.1.351）が確認された旨発表した（後に確認件数を6件に訂正）。スロバキア国内で南ア型変異株が確認されたのは初めてのことである。10日、エリアーショヴァー保健省報道官は、「南ア型変異株の感染者全員が国外への渡航歴があり、現在は自主隔離を実施している。現時点でスロバキア国内での南ア型変異株の市中感染は確認されていない。」と述べた。

（当館注：GISAID（Global Initiative on Sharing of All Influenza Data）によれば、ゲノム解析の結果、これまでに10件の南ア型変異株がスロバキアで確認されている（4月7日現在）。南ア型変異株の陽性サンプルが採取された地域は、ブラチスラバ市4件、マラツキ市（ブラチスラバ県）1件、フロホヴェツ市（トルナバ県）1件、コマールノ市（ニトラ県）1件、ジリナ市1件、ナーメストヴォ市（ジリナ県）1件、バンスカー・ビストリツァ市1件。）

◆3月20日以降の緊急事態宣言及び外出禁止令の延長（3月17日政府布告）

3月17日、スロバキア政府は、新型コロナウイルスの感染拡大を阻止する目的で、緊急事態宣言及び外出禁止令の延長を決定した。3月20日から40日間（4月28日まで）、スロバキア全国で緊急事態宣言を延長し、同期間、午前5時から翌午前1時の間、スロバキア全国で外出禁止令が導入される（例外規定あり）。外出禁止令の内容は、3月3日以降導入されている現行の措置（2月28日付政府布告）から大きな変更はないものの、3月20日から新たにレジャー目的での外国渡航が禁止される。

◆変異株スクリーニング検査の結果（3月21日付公衆衛生局プレスリリース）

3月21日、公衆衛生局は、4回目となる変異株スクリーニング検査の結果を公表した。3月17日の陽性サンプル1752件のうち、97.3%（1704件）が英国型変異株、0.9%（16件）がチェコ型変異株、0.

5%（9件）が南ア型変異株、1.3%（23件）が詳細不明であった。

南ア型変異株（9件）と詳細不明の変異株（23件）については、今後詳細なゲノム解析による変異株確定作業が行われる予定である。

内 政

◆連立政権危機とマトヴィチ首相の辞任（3月2日～31日付当地各紙）

露ワクチン「スプートニクV」購入を巡る騒動は、連立政権危機に発展した。マトヴィチ首相（与党第1党「普通の人々・独立した人達（OLaNO）」代表）は、2月18日の閣議での反対にも拘わらず、スプートニクVの購入契約交渉を秘密裏に進め、3月1日にスプートニクVの購入及びスロバキアへの到着を突如発表した。これをきっかけに、コロナ対策等を巡り同首相と頻繁に衝突していた与党第3党「自由と連帯（SaS）」と、スプートニクVの購入に強固に反対していた与党第4党「人々のために（Za ľudí）」は、同首相に対する反発をより一層強め、首相交代の可能性を含めた内閣改造を要求した。

11日、連立政権4党は、クライチー保健相（OLaNO指名閣僚）が辞任することで、連立政権危機の収束に一度は合意したものの、同日、マトヴィチ首相は、連立与党内の合意に反し、クライチー保健相の即時辞任を否定するような発言を行ったため、SaS及びZa ľudíが再び態度を硬化させた。

12日、クライチー保健相は辞任したものの、15日、SaSとZa ľudíは、マトヴィチ首相の辞任を要求するとともに、同首相が辞任しない場合には連立政権から離脱する意向を示した。また、15日、クラニアク労働・社会問題・家族相（与党第2党「我々は家族（Sme rodina）」指名閣僚）が、「連立政権危機ができるだけ早く収束することを望んでいる。」と述べ、突如辞任を表明し、17日に辞任した。

23日、スリーク経済相（SaS党首）及びコリーコヴァー法務相（Za ľudí指名閣僚）が辞任し、マトヴィチ首相の辞任を改めて要求した。同日、チャプトヴァー大統領は、「内閣改造に向けて連立与党が合意するために、マトヴィチ首相の辞任は避けることができない。」と述べた。

25日、コルチョク外相及びグレリング教育相（共にSaSの指名閣僚）が辞任した。これにより、スリーク経済相も含め、SaSの閣僚3名全員が辞任する事態となった。同日、SaSは、マトヴィチ首相が辞任するまで連立政権への参加を停止する旨表明した。

28日、連立政権4党は、マトヴィチ首相とヘゲル財務相のポスト交代（マトヴィチ首相が辞任して財務相に就任、ヘゲル財務相が首相に就任）と、これまでに辞任したSaSの閣僚全員（スリーク副首相兼経済相、コルチョク外

相、グレリング教育相)及びZa ľudíのコーリーコヴァー法務相が元のポストに復帰することで、4党による連立政権を維持する旨合意し、連立政権危機は収束した。

30日、マトヴィチ首相は辞任し、これに伴いマトヴィチ政権が総辞職した。同日、チャプトヴァー大統領は、ヘゲル財務相(次期首相候補)に対し組閣を要請した。

(当館注:4月1日、チャプトヴァー大統領は、ヘゲル首相及び閣僚を任命し、ヘゲル政権が発足した。)

◆政党支持率調査結果(3月16日)

世論調査機関AKOによる政党支持率調査の結果は以下のとおり(括弧内は支持率に基づいた議席数)。

政党	AKO	2020年選挙
Hlas-SD(声・社会民主主義)	24.9%(47)	—
SaS(自由と連帯)	14.3%(27)	6.22%
OLaNO(普通の人々・独立した人達)	13.1%(24)	25.02%
Smer-SD(方向・社会民主主義)	8.7%(16)	18.29%
PS(プログレッシブ・スロバキア)	8.0%(15)	※6.96%
Sme rodina(我々は家族)	5.9%(11)	8.24%
KDH(キリスト教民主運動)	5.2%(10)	4.65%
Za ľudí(人々のために)	4.3%(-)	5.77%
LSNS(我々のスロバキア)	4.3%(-)	7.97%

※PS/Spoluとしての得票率。PSは、2020年国会総選挙にSpolu(共に)と政党連合を形成して参加した。

外 政

◆国籍法改正案へのハンガリーの介入問題(3月4日付Dennik N紙電子版)

2月24日、スロバキア政府は、二重国籍を認める国籍法改正案を承認した。同改正案によれば、スロバキア国民は、外国籍を取得する場合でもスロバキアの国籍を維持することができるが、外国籍を取得する国に5年以上居住していることが条件となる(2010年に改正された現行の国籍法によると、外国籍を取得したスロバキア国民はスロバキア国籍を喪失する)。同改正案については、今後国会で審議される予定。

同改正案は、国外で5年以上居住しているスロバキア国民の二重国籍を認めることになる。他方で、スロバキアで生まれ育ったハンガリー系住民は、ハンガリーで5年以上居住していない場合、スロバキアとハンガリーの二重国籍は

認められず、片方の国籍しか選択することができない。スロバキア国内のハンガリー系政治家は、同改正案はハンガリー系住民に対する差別だとして反発している。

3月3日、シーヤールトー・ハンガリー外務貿易相は、スロバキア南部コマルノ（ハンガリー系住民が約7割を占める）を訪問し、ジメシ国会議員（与党第1党「普通の人々・独立した人達（OLaNO）」選出。現国会で唯一のハンガリー系議員）、ケセグ・コマルノ市長及びハンガリー系コミュニティ党（SMK）の代表者と会談を行い、スロバキアの国籍法改正案について話し合った。同会談には、スロバキア外務・欧州問題省の関係者は出席しておらず、また、同省は同会談の実施について事前に知らされていなかった。会談後、シーヤールトー外務貿易相は、ハンガリー系メディアのみを集めて記者会見を行い、「二重国籍問題を相互尊重に基づいて理性的に解決したい」と述べた。

3月4日、コルチョク外務・欧州問題相は、シーヤールトー外務貿易相がコマルノで国籍法に関する会談に出席したことについて、スロバキアへの内政干渉であるとして抗議し、スロバキア外務・欧州問題省は、ハンガリー側の行動について説明を求めるために、駐スロバキア・ハンガリー大使を召致した。

経 済

◆2020年の主要経済指標（3月8日付 Symsite）

スロバキア統計局は、2020年のGDP成長率がマイナス5.2%であったと発表した。スロバキア経済がマイナス成長を記録したのは、経済危機が発生した2009年（マイナス5.5%）以来のことである。輸出は7.2%、投資は11.9%、それぞれ減少したが、家計消費は1.2%の減少に留まった。

2020年第4四半期の失業率は7%で、同年第3四半期（7.2%）から若干下落した。2020年の名目平均賃金は1133ユーロであり、前年比で3.8%上昇した（実質平均賃金は1.9%上昇）。

◆コシツェ工科大学とファーウェイ社による人工知能研究所開設に向けた覚書署名（3月10日付 Trend 誌電子版）

3月10日、コシツェ工科大学（T U K E）は、ファーウェイ（Huawei）社との間で人工知能（A I）研究所開設等に向けた覚書に署名した旨発表した。同覚書の目的は、A Iに関する新技術のテスト、T U K Eの研究者及び学生を対象とするファーウェイ情報通信技術（I C T）アカデミーの開設、A I分野での相互協力である。

T U K E 電気工学・情報科学部のシンチャーク氏は、「同研究所は、劇的に変化しているA I 技術の世界的トレンドをフォローすることになる。イノベーション開発のための学术界と財界の共同プラットフォームも設立される予定である。」と述べた。

Huawei Technology Slovak社のColin Cui Yu氏は、「当社は15年以上スロバキアで活動をしている。スロバキアにおける世界で最も先進的な通信技術インフラの構築支援、スロバキアのI Tのタレントを育成するための当社の経験の活用は、当社の最大の優先事項である。」と述べた。

◆2021年の経済予測（3月31日付経済新聞電子版）

スロバキア国立銀行（NBS）によれば、2021年のGDP成長率は5%増加する見通しである。他方で、財務省は同年のGDP成長率を3.3%増と予測している。内需は新型コロナウイルス感染第2波の影響を受けているため、主に外需が経済成長を後押しすることになると見られる。NBSによれば、2021年の雇用率は減少するが、名目平均賃金は5%上昇すると予測している。 (了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

